帚木

扨とりて巻の名とは、源氏十六歳中将と申しし時の事
宋紙に此巻を帚木と号せるは、源氏の君中河のつゞり方とゞめ
なびくて、ゆくへ知らぬ心の空恋のつまもなくて逢ひそめしこと
ゆゑ、帚木のうとからぬ道よりやうくまどひつゝ、
ほのかにみし女、ゆくへもなきにせる名乃ゝ、
たゞにそなたゝ、行かぬ名なく、これ扨上是則が、その
歌やゆゑとゝ、ふせる帚木の、
とゝ、ふせる也、帚木とは、義濃信濃
あるなる也、をくてとれば、帚木とは、
よ、ゆゝしき木なり、
此巻乃名、
はゝ、
れりとゝ、

なくうるわしくもそれば帚木一部の名よりなる物也天台四門の中めくは非有非空亦有亦空門法相倍よりなる細流曰桐壺の巻は序分よりぐも入るなるべし此帚木の巻は相倍の序分なるべし凡荘子の胡蝶の夢の詞もはるかに同じ入し世間のあるかぎりなる帚木よりはて夏衣はかくれなるべしとなり也云帚木とは名は此巻の大意より相違せり是の理肝要也義深極の巻もかれば是なるべし又人間のまを旨なるべきなるべし一部よりなる色

ひろ源氏なるものをこそ
細河海よ名のことくくしくと後
ふるべきなり一ふるせりあるべし
但ふるつあるもるーかもる
くかぶ抵云名のことくもくふ
光源氏とは名はいかうせ
かやくるべく花鳥此發端の詞
は桐壺巻の終の詞まいる君と
は名いこはうとのめでさて
て付たるるるとは待て迄
ひるるれのふとは兵部卿宮
藤云世よそ名をもるるの誉れわ
ふ人とも世上よいかるべし
細人ともるかるるいる
ろ名人もひかるるるの是世
間のかりるるべ
ともるごと河逸日本紀教奇皇文集
ふのひるひるる
曉源氏の君の好色は花中将なるの
ろるるひるは替りて上は實と立
て下るいるるるるる
人のあるひ孟子も行ものて
人世界花人のあるひるるるる世
なるーるる孟ひのるるるるる

ひろ源氏なるものをこそ
菱この句より好色のことは
とるるるるるるるるるるるるるる
忘の世のもるるるるるるるるるる
げるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
くるるるるるるるるるるるる
實目
るるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
細葵上のるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるる

今一河 [illegible] 注 光君下のゐハ [illegible]

[illegible] 細 物語の名 清少納言の枕双子物もとより [illegible]

物語の人々 財もろ [illegible] 細 [illegible] 此一巻の序なり

[illegible] 細 相撲 [illegible]

三日 [illegible]

[illegible] 内裏 [illegible]

奥入 [illegible] 光君の [illegible] 細 此段ハ悪皆源氏の君乃中性と書あり

[illegible] 源氏の君 [illegible]

[illegible] 師説空蟬

[illegible] 紙 六月 [illegible]

[illegible] 内の [illegible]

[illegible] 紙 内の [illegible]

[illegible] 紙 源氏の御 装束 [illegible]

[illegible] 源氏の [illegible] 調べ

[illegible] 源氏の [illegible]

[illegible] 紙 [illegible]

[illegible] 料理 [illegible]

びともとうとこのりも
細へそなくむろひのふかよ
とのつくしく礼式をもちく
使ひまふとく是則ふさの
初信るしかけうるの
始よりろたうく
ひるま　血かふとそ伝しう
人よひられんちうるひ
てそえねいをしさ
れくしかうくして
帯よるが毒時ろうさしくる
貴尾く也　数月の中ふ花目
法ろして俳よ初絶をび
も一入面白うく人され表の
さ面とうくありくと太お
ちり

一
ちとなるへうもしそ
細そ中よ又若しそもか
へうとちりり下のふい真あ
ふるとうくしまふく

長く礼式と治定の心こうく
づうこすりもとうとねく
りふうとものくしひるうんひつ
ちうくうくうくうくうくうくうれ
うけうつまづくうくうくうくうくうれ
るうしひの毒よ辰上みも地ちくくうくよ
花御又顔ちうくうくうく
血源氏の巻ちうくうく相違とうくうく
はるのみぬもれいちりいのどやうちんらを
うたみ炭若くおどうらうくてよみどもたうどう
紙ちう文うこの文く
作扇子
結つあぞよらうくうくうくうくうくうく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中将の君の上まろやかに媒の
空言にまろがれうしまろ
をく源氏ここうまろ
ばかりまろくいまるこ和ら
へかいまろ
さうまろんわまろまは
もこまろ云わまろ人にて媒
もはまろ我とまろれ
まろにまろまろは一向
まろかまろ人まろは作まろを
まろれまろんまろ
まろまろまろ
細まろまろ下品とまろまろ
上品と教まろまろまろ
まろまろ中の品まは人
のまろまろまろまろ
人のまろまろ
盃まろまろ上中下の三品と分
てまろまろまろ中にまろ
種姓まろまろ上のまろの人と
まろまろ

とばまろまろひてまろびまろとまろそまろれまろまろまろまろまろまろまろ
媒媒の羽とまろまろまろまろまろまろまろ

世のをさまり　西世の帝三人
をさまりたまへり
西門の人のうとうゆる
なり
をりの人れども　細　をさまの
のしへおの三の子と伴をさ
惟光ひとり左内侍のすけ
なりよあるべし
をさまりはやうしてけり
細　光は種姓一さ人のをさ
ろへゆくをさまる未詳よあ
れり
ふるさとにしては　紙に祝
ひ一ようりしけのふるう
ら家まつれいをろわき
もすくさいあんく
うりくまとりて
たるひとあくよりひと
りて彼二位とされ中の
ふとりて
むとアわさいいして　孟受領
とハ諸國の守をとり國衙庄園のをとりの和なり

夜式アのぞれのいさよこもんとてま
ゐり世のをさめくりのうらひとれ
ろと中務をしてこのをれくどわうを
へさぐめあるうをふくくこしわか
りのわれどもをうらうべうす
じかくぬ世人のまへこともはいど
をさまる中にもまさうぶるくよこしうて中
のをめぞをくべうをうといひて西

知
思のをハ一位四ケ年つよ
てうりくおて人のをろをる
とうくて吏勢とつをどうく
ケ人一ふの5ゆく泰後の
兼家とうハ權ゆ
うをうとして　師伝　受領よ
マ雪中相すてうりのりし惟光
の女の紙をの後ゆて受領よを
ゆ人ゆう一頃石入后の女の紙
先中のふ女く孫うく横出へ
き物の箱ひとをくをれ二ウ
の中ふとうくをとろ句こ但孟
津守の諸秋よ此りひくい西財受
領の女よ可然ゆ知りを中とあり
ろれハ受領ようのとをうもあ
と別ふをうくろ可陸奥好
三面くいとをアうり非泰後
四位　ものの　師伝　をうりあ
あまりふ中の子ハ數のを面く
めりをゆと浜ほまりひろ
非泰後の四位ハ六
下の段どをうりろうをを
つをよ半相とうり泰後よい
まをうゆ四位のをうハ左の

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとやうにとなりたるこゝろ
そやの袋詰のこゝろをけり
哭 源の心に憂上のうとをひ
あつせうに 紙憂上の又は大
長母衣は帝の御妹なれば源氏の
ふかうしびなれど源氏の
御心にはあつかはずそ侍
もろきかぞこゝも 哭 れぞとは
えきぬとそうり但衣裳の色
名をとゝろ不をあつし
るとゝ一ハうりを 盃下うるね
とはぬぎて垂衣いりをと
うる紙に自衣をてはやし紙
さと道遥院紙をく 細 夜陰
うれは和毒の中をて、指貫
と畧をて垂衣ばうり引うる
るり物語るゝ一条殿閣の
紙し紙を垂衣を必下にきを
うるめる物をてはうるあとう
紙ぐうとるをしばうりとは
ひ指貫と畧をる紙あま
ア七ケうる
ひもをどもうらをてく
紙 けひもとうねうと

源氏幸ひうるこの世をとうるとうるとせ川く
ひのほうるはしうしばうんとぐれてう
ほうるはぐうさうこのそうひをこそとばぐうわ
そうのうとうるこのうとうるこのうとうるこ

[illegible]

師説 家門も天下のしるし高くなりてはいとかたかるべきなり

[illegible]

師説 [illegible]

[illegible]

師説 天下の政をとりて眞夫人ふたりも百官諸司をとりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひさこあらんてとりかたれいあらんとはあごかくも
とつ　めのなんとをべしごとかかよるれめ
ろうろうぬ　ひとめのうろうろこいりのくわ
れとりそぐしうるさつつでのたうけ
ありぬ　ひよもくめうくこかくてしもしろ
くそぐとんとこいうこと　しとみくしろるよまこめくちこそうどとこ
てみ　みどらよびさうかこいどどうじ
のひくくよようとけこうるうこうとぐうりとこ
て　朔夕の出つりよつけくくもぬかやけうこて
くのの人のいいのの人のうさてどまぬこうこうこと
ちうもみくうこうとこゆるわうこぬ
とうくさんうてうらはまぬ

ここの字ハ清字ケレトモ仮名
何よみわるきに
うくてうん人の　ひせうろ
こうりとくてうのうもも
とはよりぬ　男ハ嘆息する心
くりとしあわせしや　結うあ
ひせいうくさはんあとと思ひ
ぬやあもしくくくくくくくくく
盃　ひもせれ　暁月
ぬるくひもせれ　紙口
くちふおもてどに伝家それが
ちどちひて元ちくひちるる
わうかくり
あうれもくちひくりくろくに
紙表紙ハ紙ハ紙ハ紙ハ紙ハ紙ハ紙ハ紙ハ
懸もくるあうあうひくくう
に男ハわんはハ女のうもも大
ままあじとはくとうて男
ともをうみどもふきうみ
れどくんとうくてもハうう
ちどあひくくくひくくばロ
ひうくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もたらしまそときいなうとてつく
あいれなうとうをきくとき
祇園はいせ物語よりひろのの
かたに有て女おそてつるとくん
りうとといひやなんといひて
うかれ出てやのるく
女房なとの物ようりうと
祇園まつへいは根よりつるやうの
りを女房のあるのるとく
を春よりしるし今いかさま
なりりうとる云ぬるくん
らう物く
いくろくくくくくくくくくくび
るる　つづきうくくいくそ
時よくひくれゆく女のくを
ちまくろ物くぬりく物
まりくくくくくくくくとく
ふりく　ふなど
孟　元は古今よ男とくくくく
くものるるくくくくくくて
紙とくくくるるくくくくあり
しくくくくくくくくくくと
なくふくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

ふうりゅうさいかくをうけもつまう
ひめそハ　俗して濁世まわり
し間うりうく分家のちんの
ちまうりいうりうりて悪な
ようまうりうりうくうくう　奥へ
遣手のまうりにちまぬんりそ
行うく家とうまうしあざむく
その子ひ出　ひハト九七ま　イニナレ
我も人もうりあうくうんとのれ
しやハ
紙ととのくくわひまひてあり
ともまうりうん女ハうりあう
くてんとうれぬうハあうま
のうくくもとしいせ初信よ業平を
接ー女のスひうりうりうし
うどもうこうく笑て業
平のうりんとうんのうと
ひうう・うりうりのうどを
うんうて笑式部ばかうう
むとうたうう
えうのうりうりうう
師伝　花ハみうりめれ恨ひんう
るうもいとねしハうりうて
あーうりうりうとあるを書く

師伝　ちうりうりうんうれ又嫉妬
のうんのうを不及とひひて次ま中
ひとひうんうそううりうケうへー
ふうりうりうふうりうりうも
師伝　ちうひ男のふかうりうふう
うもひ女をりうりうえうめ
しううううがよいもいと
ゆーくふうう流ようう本妻そ
うひうりへううのどうく
うりうくあーんうりうりうきよ
師伝　嫉妬を堪忍せもして女
くうむうくくまりうりうんみてう
ひうて中ーうひうのうるううう
師伝　もうり女の心むけの肝要を
ひうておの恨ようどうくせ女ようう
ふうどうう心ふくう女よううりの心不及を
いうーめて男を怨もううの
中ひとうりうふうとうくへー
れうりうて　ま女の心ひけ今
ごひ結ようう第上ようりうし
ひけうう　よううりうあーー一向ま
とうりうとうあーー初く
けるうあ舟のうううう　芸

うりうん嫉妬
師伝　ようりうりうりう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

これと法説と云次に喩説一周は譬喩品也此品にてめは法説の述成授記あり これすでに舎
利弗に対しての説法也其次の段に三車一門のくくへとりて三乗つあり一乗はゆとと
もじ[illegible]なのべて中根の聲聞須菩提迦旃延迦葉目蓮すでに
と喩説の述成授記也次に因縁説一周は化城喩品也過去久遠劫より大通智勝佛と云如来の法
華をとくさまのことくこの人の中比退屈の思ひなすて小乗と修行せしが今又叡尊に説法を
うけて回心向大の声聞しるれる因縁とくこの因縁とは三周のもとにいまの如結乃法華とは
くこの人をうけてこれをこの因縁とあらくて諸仏衆の因縁法輪の縁とせるなり
あひくらく世俗文字の業狂言綺語の誤とあらくて諸仏衆の因縁法輪の縁とせるなり
陸の母はあらの乃師のせのくつりくくそれ不のくたもくいつくこと思て手をうちうなづし
そこの人にのりてあるひの　そけくこのそくくやうの具のひくくり之ことくこと法式もくあく
そこつさ　河側付
ぶれくく　細　ぶれいたるのくくれれもいくくとくくいつく
のたくぶれまくぬをいたつくくく

細 唐橋宗問筆法柳公權曰
心正則筆正筆正乃可法矣

今のよしびとの
細 手ぶりも世ぶりにしたがひ
やまとかなもまた
世にしたがひ
ざめもまたものの
ことはの
とよめるかの
ことばよりこそ
しげきなれ
ことのはの
ことばとは
ものの
ことばの
ことばの
ことば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もやうの人ぞ多く育むなる
とて育むじとて
孟 形文遠
みてもろてうとく
又恐懼 形遠
[illegible]
やまじい中絶へくれい殺しの中
とえすてとそひて中絶へ
ちつく嫉妬せ[illegible]のん
なのつりとひすりて
なとうとうへ

人なるとくみもちうとうとうみ
なのん 細 [illegible] 暴進とも
とく 孟 [illegible]
[illegible]
[illegible]

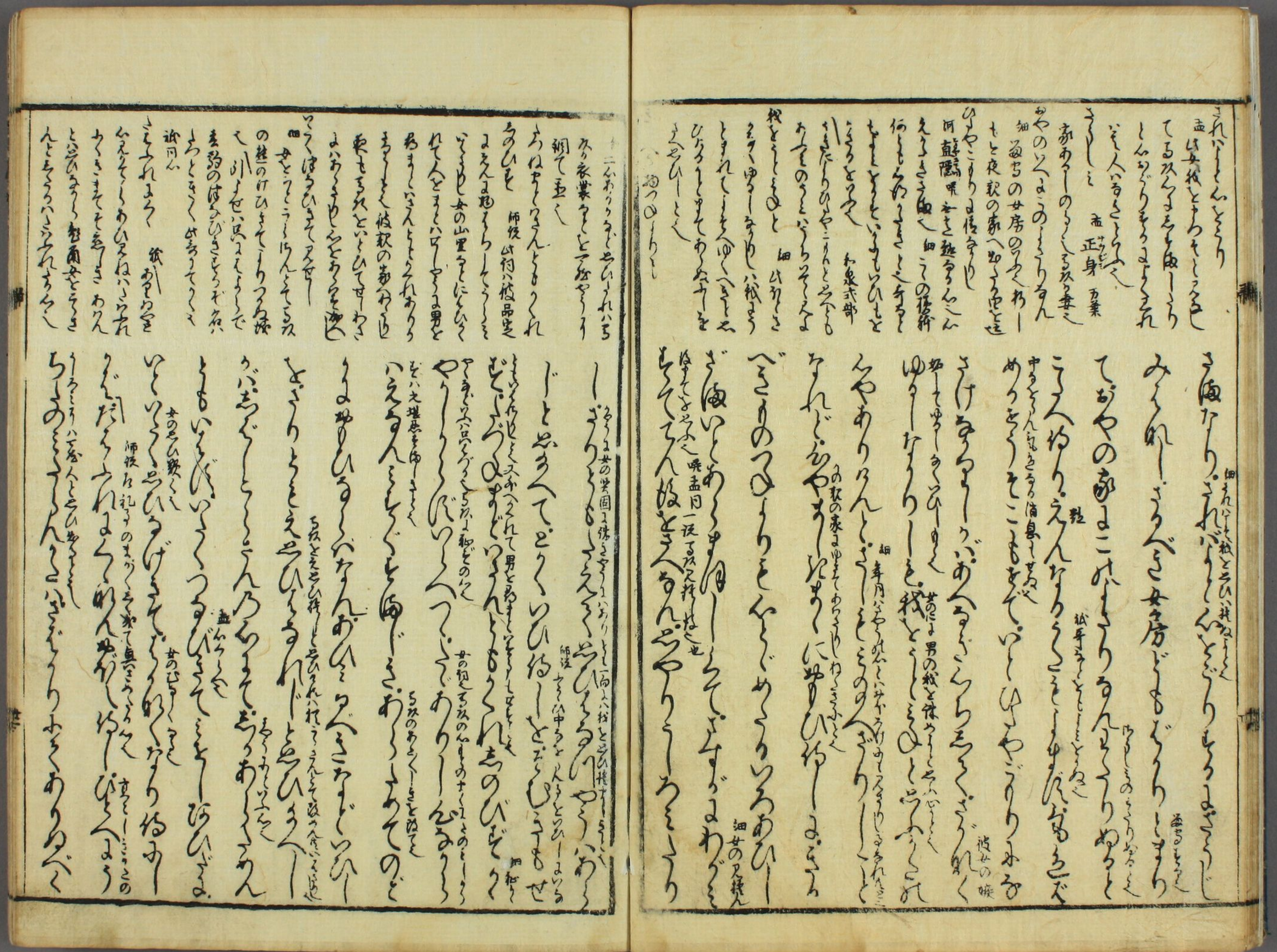
[illegible]
[illegible]
[illegible]

賀茂盗賊調楽十一月
十日於北陣梅殿屋有後式
有饗膳勧盃等　次第人
のまうとはかりなり
十一月酉也調楽八年の日
大内かくれるる事多
の御代の事は公事あり　給は公物

清涼殿の御代の事　公物清涼
殿の御代　延喜四年十一月
廿三日　内雨雪着深履云
々　清涼殿の御代の事
とこそ

うらうらしく
紙ふすまはるる物もしろ
くのうつり　盃日数　隔心の
酒をく　隔心なくて行も
うらうけうられぬ神く

大内のうつりみそひけ
歌　残燈背壁影　白氏文集
をくるうらもしも
也　考みうらうけうるく
衣ゝ　ものうり



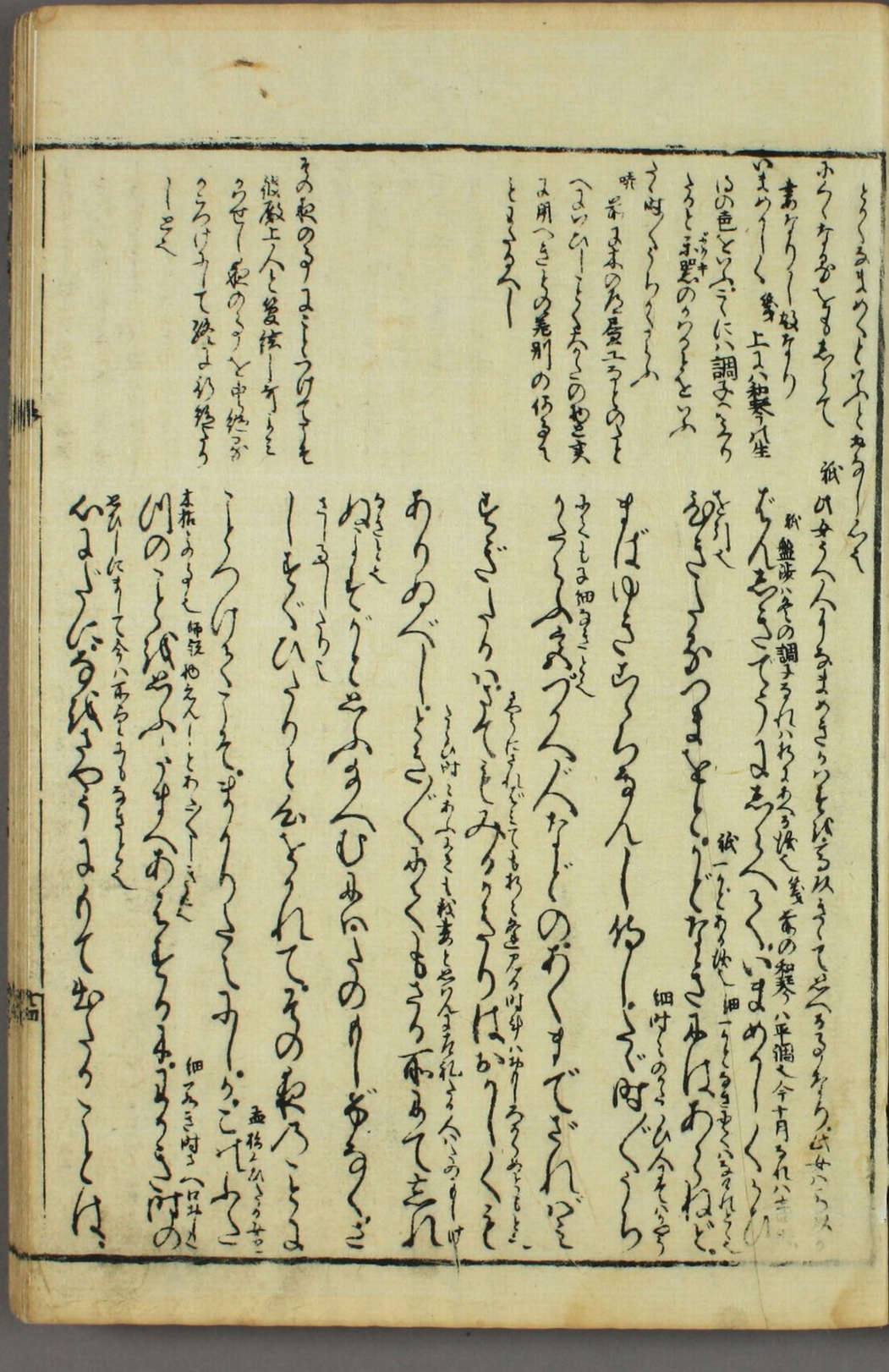
なんぞうくるるきあぐこととやもずまこ
師説 ねひさしうき家ちしの松えいかをてこ私のを
と続合せてこうもと数よかうもしうこ
ものおもはずともつひわくせこうるひるうこ
ふうりしこ
ひさびめしいこんをもつきみうこむでこられ
ぎこのうをみもどうもうまこくそのこうもぎこ
根細こうこうくこわもう細
うこくなんぬしこそいでこ義こうひ物こうり
師説 中将のうこの面白とすてこ面のうこ秘こうこと知こうこ細
中ねそのめこうみぐこれこうめつこことのどうこく
みぐきこうぐこうみぞ行えまこ
知のこあるこうこ
姫のみ
彼女こに
こしてこ
師説 絹と浮
よ封して花紅葉とこうこうこ
花りみぐこいこんもありうこれ
何こに家八細のこうこうこ
こうぐこ
こしここぬに寄のこんこうこめこうわぐ
師説 それこうこと
なこうぐこうこうこ世こうこ世こうこ
こうこうこうこうこ世ぞこはこうこめこうね
こうこ
盃こう祝詞こ細こ流こうこ世こ
こうこ
こうぞやこいこうこうこ
こうこ
こうこ
こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまのきさらぎのこと　暁　和琴うれていまのきさらぎわとうく管絃も昔よりてえさうろうハうろし
うしどいまやうよ所しき妙をハいてくるすこ一注
在の紀ふこそ　河　秋ハきぬ紀ふハ有こうりそ
ちうねともいうを由みも此女こ人のうふと実ていうくハ年年のうく紀業こそとうふしあとうく
うこ人をみるれ秋ハうく多てまりうるうとく　けくまもそこハ花ちこうくひて女まわくまもうくこと
こ人ハありともうくこの紀業うくとも秋こそ
秋年に此んてくうり
今ひしこ志さうをうをこ人のあ
ふけうり　盃　そうるうをこ人と
此男のうくうくうて　花月秋に
当うをこ人ハまりうりてきこうや
こそ秋くそぐ実ひもぐき
河こをとのこをと引えとく
本拾こ吹あうをうハ師況以義
秋年月うれハこをとうえぬんも
あうくしおの年ハ別こ拾人あ
ふうをうをうをぐ年ハ秋こを
うをこ人をこ人よこうてうう
こ本拾こ吹あうを紀うれハ秋こ
引をうこ人こうふもうをと秋こを
ミられてううく
ふまうをこうこを　こうをうく
ミこうれうをうくハ世初張こ
此車と女車とうをうをうを



ふうくうをうをうをうく　紙此女こ人うをうをうをう

忠のまくに　細　[illegible]

[illegible]

萩の家ぶぢのあくれ

細　引哥は不可及只あるこころ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人とぞ[illegible]

むしの[illegible]　孟月番

河[illegible]　[illegible]

萩の[illegible]

[illegible]

[illegible]

七[illegible]

細　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

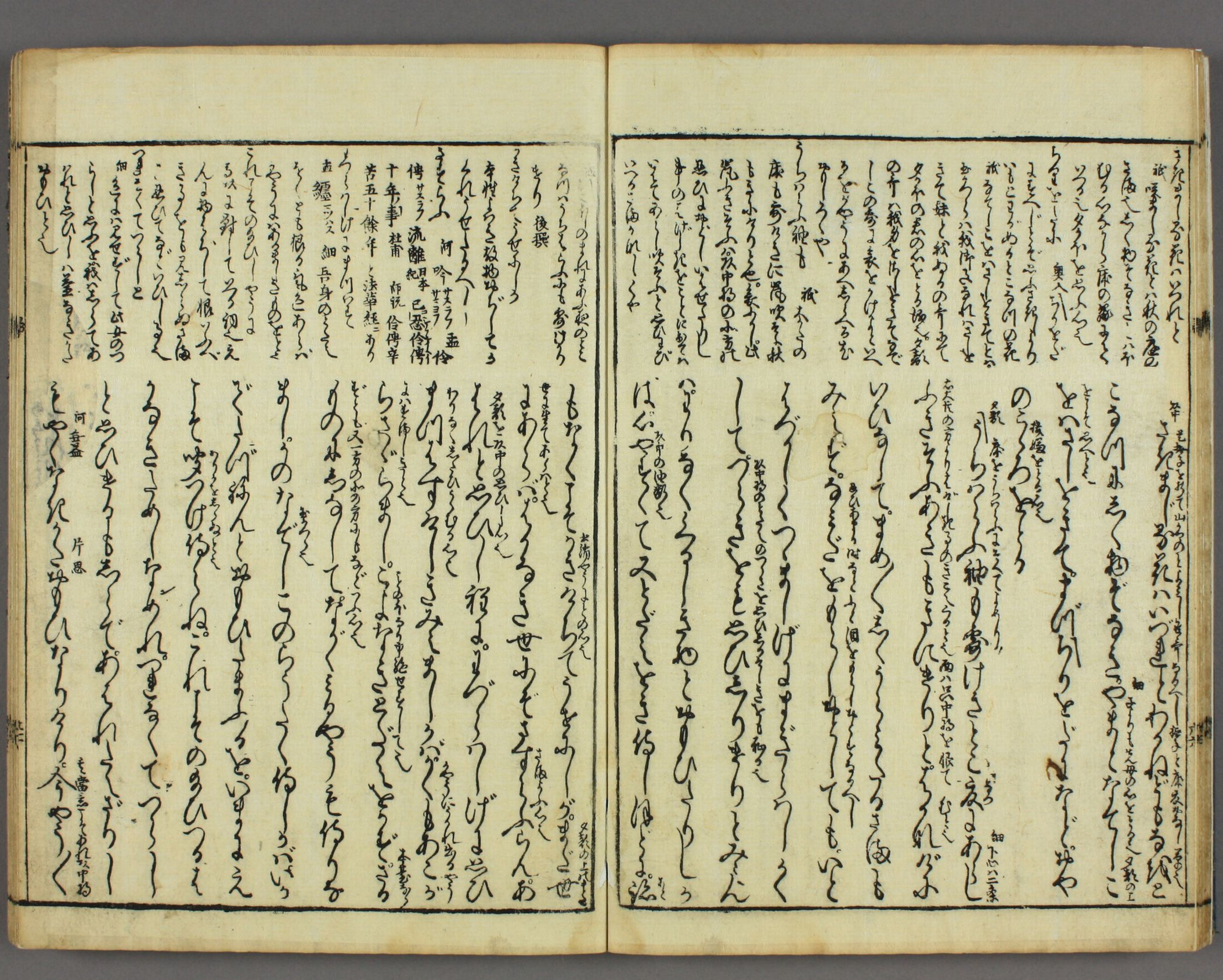
紙孟月番　[illegible]　撰樟　七年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



人やうのわ　和漢秘　わろんう
らしゝゝ人やう
ひねこうゝ　盂一念一心
焦　蓬仙扇　三教指歸云　擊
莫　術婆伽之燒胸
これいのさうれわと
細　もこうりみるこうの　ものく　蒸
よハ中わの　ものとゝく　暁　元よ
もるこの　細　ものうれと　見

ひんうとうきと　ゝ
盂中わよいひろうんとさ
もるさがんりとうきせ
ものり
ものくふらくべうく
花　元いうるうべてろよい
てれもるあねいらくく
ものうゝく　暁　世上　元
うとうきうりうゝ

わとれひりゝゝぞんくゝこえひゝゝれどゝ　夕　乳ハ　細　ゝ　元　ゝ　ゝ　ゝ

しゆるのあるところのみもと
まちあるさかをとうとくさかり
進こうまねをんやをこひし
やうにまり

うぐつまるのゆうらうをうをを文
奥へ白氏文集秦中吟云主
人會良媒置酒滿玉壺四
座貴勿飲聽我歌西遠富
家女易嫁貧早輕其夫貪
家女難嫁貧晩孝於姑事
舅

とうのくらをふハ公貧家女
と富家の女との得失と論と
うくとあるの女ハ嫁娶ニ
のうれ見るうぬまり にのく
こしゆけともをまとうをを
ゆうのしぢをこさ家の女ハ
婿礼をこいをこうをれや
うをれども事成めれハを志
うをめの妻あるをこぢれハ結
ち女貧家をうをまりて武
アまいをこをせうを

ぶとをとをひめぐをこんをこ
をつをりふうをこ
細き手のあるを女を皆和をこ
せをうをくぢをこのをこはるまくのをう
ぐをりをぢをれいあるをこをせのをりをぬぐをりん
をぐ作をてぢをうかをひをはぐふあをじ
ひををめぐをこを作ををこをうをこをまへてをこを
師説 是も彼文集ニ上人會良
つあでをいひをて作をし紙ぢやをこをつけをく。
媒置酒滿壺
をこぢをりてを出をく紙をこれのたをこをふをこを
西遠こまるのうち文集のごとく
けをこをんをこをこを作をこぢをぢをこをこ
細ねと男ハ師ニうあるを祝のをこを作をこを
をこをけをもをまをこをぢをのをやのをこをはをうをて。
女の武アをはをこをこ
ををぢをうぐをこを作をこをぢをよ。ぢをあをこれ
ををりをひをこをねぢあをのをこをこをひをを多あ

ぐをつを著作やけをうをふをまをうをへをさをたをくを
をこをへをてをぢをこをこをげををうをそを文
盃遥ををふく
ををををいをを物をとをこをまをぢをすをひをく
をををををを作ををををのをつをくをえをまをう
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを

[illegible]

男女一とし細ることなかれ

[illegible]

細男女ハ或ハ[illegible]或ハ口[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月のえん　五　うぬうしじべ　花　重陽の宴は八天皇南殿に出御ありて内弁外弁等ゑ丈人博士と呂
まて題と奉らしめ給ふ　酌のまと採て詩を作て文章の上手ども講ぜらるべし　三献ゑ　米奥とう　帳
の左右に菜菓の袋を結付く　御前に菊の花を飾て五ゑ近代宴の装束　ゑ　こ　りて宜陽殿
に平坐して上卿以下着座して菊の酒を給ふ　河　續古諸歌桓景がすとひろ壁
ゑ　ゑ　ゑ　

中納言の君中務の
孟 姫上の女房 花中納言
の君は源氏の次女
なり一夜さ
中務は
源氏
源氏の
源氏の
源氏の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀守ゐるにこの〻〻城く
のかの家よりあく
細 帝の家を中の家ふそく
へきをりやうとそて人の
よりつひてゐくえ〻
と氏家のあうを面と係の
らんして宣〻石合もく
ゐひあるれる 細 宣探とい交
の四人を〻せ人をぐ四人く
あのそくあひ 細 交八みる
ちく〻ときろべきをよる
あるまくさくく紙を頭ゐ
ゐ兵氏もひゐりゐねと
よれをねいをびさ考ある
へ〻みゐり待もてびきる
れハ名ゐくていハ寄叶
ゐしとあけゐ
細 母のある方のくしたり
ゐれハ契紀寺御亀也
て出ゐたりゐ
ゐじのゐゐり
細 源氏の家ゐりてひあ
ゐたゐへ〻

ゐゐきゐり 細 憂上ゐき
ゐまり給とゐく
されとゐゐ 細 さいあを
くとれをあひあゐきハ書に
あゐくく
ゐくのはあてあも 別 垂密
通のをを人のひりをを
ゐてけゐゐく

式アロの文乃結美 細 桃園
の式アロ文の作女槿の新院
せ出ゐりゐきたびるる
し 物く出物 作り 帝
よありつる事とゐく
氏新ゐ物結の帯く

どびひのまあゐき陽もちゐく
なけ色ハまびゐ〻ゐく給よこれちゐ
ゐきやよはたひみゐりケゐ
へ〻ふ〻ぐもをゐ〻みゐ祇ゐ
ゐ〻ゐのはあてあも
ゐ〻ゐのをを人のひりをを
ゐてけゐゐく

ゐゐ〻ゐすびゐ給ゐろゐそゐ
ゐ〻なゐゐ
自由ゐゐれハ氏のゐきひゐゐんゐく
ゐれハざれどゐゐべゐゐまみれハゐくゐゐて
ゐれあゐゐきゐゐれるどいゐみをゐ
ゐのゐゐゐゐゐまれでゐびひねつゐ
てゐゐゐのつゐぐみもひゐのいひゐ〻ゐん
をゐゐつをゐんをゐゐゐゐゐゐ
ゐゐれをゐゐゐゐゐれをれいゐゐ
ゐよあゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとよはくなんといつゝもやの絶えもせず世をそ
こぬるさめのさまのたれをいとはしもあるものを
細紀貫之 孟不意 四方ずく
みのよりくて地しほのたるり世中といふも
のをたにそ今もむしをそぎりこう
こゝ仏 雑中 ねたりよついくを女のをくをい
うひうるうんあるれよ仏のたゞをとし
細源氏 孟 仏与の物いうづくや恋とうつんか
紀貫 細 立隠とうつうん
よ孟かうの恋とをいをひく仏めう
孟 孟 細源氏
きんあんんり仏をの物も
孟 細源氏
ゆをうんうねい宝塔を
紀貫 細
しらうれのあく
景引
てうけひをいたゝむたゞりもまう
細源氏 孟 似合くよ好色めうんを
ゆをうの物つきゞくをくいまめをさうんよお
うをそむやはゞのめをいとうありて
細源氏の仏の物語のをくを
孟 細源氏
乳母めのとや 仏をのめ
ハ中あるをくきをあるものとあ
しくハ紀貫にゆををとを
のをく
つをうをうを孟ひをうをは
れ仏の一枚ゞをゞゞ
とをうをとををを
細源氏の仏の物語のをくを
細紀貫之 孟 細紀貫之 孟 細紀貫之
ゞゞ地りあくゞをんをを
細源氏の仏の物語のをくを
人ゞをめをよをつくをゞまりめをいとけ
孟 細紀貫之 孟 仏の物語をを独語をををををを
ゞもねををれまをゞゞををとゞををを
細源氏の仏の物語のをくを
よれ色をさめてゞこれををををとのををを
細源氏の仏の物語のをくを
人のけををひをををををををををををを
細源氏の仏の物語のをくを
をれををををををんを表やとれををををを
細小美
やをををおををををををををををををを
細源氏の仏の物語のをくを
孟 孟 細源氏
忘ををくををををををををををををを
細源氏の仏の物語のをくを
ををれををををををををををををををを
細源氏の仏の物語のをくを
ををををををををををををををををを
つをふ道ををん 細源氏の仏の物語のをくを
夜面ハいをを道ををんとを
しををををををををををををを
をとををり

いうくと　細　姉とも妹とも
系圖をとも姉弟をも
みな人皆未詳　空蟬はあるべく
よみくらん　後　空蟬はあるべく
系譜よはあるべ弟もあるべく
男のもの系なる古今の序
よりてものの名と天照太神
のみこと天照太神も
あるべきもの天照太神も
故なり
ひとうみそ　細　小君の詞
花の女房たちの詞なるべし何
れくらんくらんくも
細　たちと猶人とくらんくも
同をけりと源の母なり
女君はうこの　細　源氏の空蟬
の声とうて雅楽の音
の寝殿の母屋の南西と小屋
との中とを隔て障子
ひくうと障子入すち
ひくうしく今和源氏の寝殿
而し寝殿の系はひくうくあ
の何まとんてんのひくとそ

らくらんとひつ後されどけどそう
きりといふねうくうこと忘れたるけるさ
細　小君と空と為く似ることいくうくひくうくうくう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あはれ〜也　細　あんくちく
云地とうくせ　私阻のさはは
ちぐじたしひれかもくんくへ
ぐちくてくしもあくもて
制止のきくるくり

ちくくるんつきみしく
ほちてぬねしく係の恋ひかもと
も真心と云れんくりはねちく
ちくるくりて真心とこへちく
ちくく

ちくけのくりて　孟子作
いくんての作くりもくまくて
くくくくくやくるてちくもお
まねくのくり
ちくくにくやちくくて
係の押さくりかすひと夫
よけくくくんく

ふいさくひまくくぬとさくべさよ
世の恋あくるやく　淡の字阻の字面式あり
やげよくあげめれくてまくくもくと
係よあたとてのくの字の句
くくりなくくくまくひとくくりくくもあ
ふまぐふく
やちくさまぐ
げよのくまんどいくくぐひるくされあくさ
海のいあくくくくけくくんくくまべー
きれげもくくくくようみくくくくつくきみしくはくし
係のくくくのくくくひくくくくて空
しくまけるくくくく

のらせすや　細川　武蔵なるねせのゝ乃ぬ　花　しの多
るゝ源氏よとうれしてまつゝゝ帝こうろう
とかう空蟬のゝく後世はのられといそんあかり

いとゝうかり　細　しまぐ
ゝうてゝるかりてそ月傳
世ゝくるねハゝゝゝゝ
紙うせゝゝのよそいよの女
ぐ書とかゝゝうゝゝゝゝ
ちぐゝゝゝれハゝれとく
ゝゝねとハのゆ　ゝゝ
ねハゆゝゝく　孟月
きゝゝゝゝけそ　細　それぐ
ゝゝゝゝてわゝどゝみき
ゝゝのそ人のきゝく仏今
ゝハみきゝゝゝひそとあゝ
けそとひきゝく月ゝ面
見　師　仏有八大和初殺ゝ
らのこ殺ゝぐ人ゝあひ
てゝゝゝゝく殺ゝ色ゝい
てゝしまてゝき殺市とゝ
ゝゝゝゝひそ人のきゝんぐゝ
ゝゝのゝく今宝塚もあゝ
ゝき源氏ゝくゝゝゝて

とゝひまゝくなぐさめまゝといてゝゝゝゝなる
ゝゝねの行とゝ思ゆゝぐひゝくゝゝまゝ
ぐゝゝゝゝゝゝゝゝとゝゝゝゝけゝて
宝塚ゝゝゝゝ海げゝいゝゝゝゝゝゝゝ池ゝゝゝ
ゝゝ海げゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ池ゝゝゝ
らゝど楽ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝきぬゝゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
細紀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つぼすきを　細　実家をうき
せくどうあんあの細西京。
きをとをくこゝろより手ねよ今
歌実をうなをさせをとをを
人のゝし　師　をほの雑西を
恨をもひをそぬ四ようや
ゝうもあんを別ををゝろ
をと歌をふゝし
つねいををゝくをゝ
細年生へ者多よ佩あるを
ゝひし伊ををゝをを之
盃真母非妙ゝく
多のゝをを　をも名ををさ
て盃ゝろくのゝをとゝゝう
ゝねゝろゝく　師　空陸のゝを
のゝみゝく伊をの事をゝし
ゝゝく西一空ゝをゝゝ意に
一　伊武をあひしゝゝ　みゝし
をゝの多ゝくゝ　伊氏を
ゝれまゝをせゝしゝゝゝうゝを
ゝりゝくゝふゝをゝのゝを歌
をを京をあゝねゝゝいゝや
ゝれを多ゝ多風者をれ
いゝくゝゝををゝゝうゝねて

つををゝを　陸　武ゝゝゝもゝそぬ藤原をゝうあ
へぬをゝくゝゆゝゝゝもゝん女多のあゝゝ海と
細才條のゝ
ををゝをいゝつゝゝすゝまゝゆゝゝゝゝゝて先
陸氏ゝ
でゝゝゝれゝてゝみゝゝもをゝをゝもゝがゝゝゝ
つねいゝをゝゝくゝゝ
ひあゝみゝづゝ伊をのゝゝゝゝゝりひゝゝれて
細伊をゝ
をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

空輝
多のゝゝ武ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めとぶらいのこと
源氏のめとよいのこと
ものがたりのこと

そしてこのうつくしげる孟 ものがたりの話をしてひかれて
細 小君の付
めとよいいとぐかしてまりぬるのこと
主殿の
けくのあるうら海とおくう
源氏のふみをめて
しこ物語
孟 遠俗也
ぶこのこと 小君と紙伊勢つれてあること
源氏のふみをめて
めとよいいとぐかしてまりぬるのこと
細 年の行ほど
主殿の
けくのあるうら海とおくう
孟 遠俗也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

空蟬とつれなくもてなしたまへるこころ
ばへ、いとあはれにおぼしなぞらへられ
たまふ。

不離 不遠

[illegible]

細 女の心ばせ[illegible]

[illegible]

[illegible] 細 不用ニ小君 嘆 遠例

[illegible]

[illegible]

[illegible]